

令和6年度 大学院医学研究科博士課程 及び
医学院修士・博士課程学位記伝達式告辞

本日ここに学位記を授与される皆さん、おめでとうございます。この日を迎えられる皆さんに対して、北海道大学大学院医学院の教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げます。このたび、医学院修士課程16名、医学研究科・医学院博士課程46名の合計62名の皆さんが学位を取得されました。皆さんが研鑽に励まれ、修了のこの日をお迎えになったことに敬意を表します。

皆さんは、指導教員のもと、皆さん自身で設定した課題について、自ら実験し、あるいは調査し、そして論じ、結論を導き出しました。すなわち、新しい知を自ら生み出すということに挑戦しました。決して、たやすい道のりではなかったと思いますが、学問の本質に直接触れることができ、感動や喜びを感じることができたと思います。最終的には、研究成果を学位論文としてまとめ、主査・副査の審査に合格し、学位を取得することができました。この皆さんの成果は、今後、多くの人たちの共有の知の財産として、永く引き継がれていくものとなります。

北海道大学の学び舎で、知の創造とともに、皆さんの多くは「国際性の涵養」という北海道大学の教育理念に基づいた素養を身に着けたことと思います。北海道大学は、札幌農学校をその起源としています。欧米の文化と科学技術を導入し、外国人教師の英語による授業を行った札幌農学校は、設立当初から多様な世界にその精神を開いておりました。それ以来、多くの本学の卒業生・修了生が海外において活躍し、国際性の涵養という理念が、さまざまな形で受け継がれております。

現在、私達人類は数多くの課題に直面しています。皆さんは今後、それぞれの進む道において、予測のつかない状況に直面した際、各自解決する能力を持っていることが重要となります。未来をできるだけ正確に予測し、問題解決に貢献することは、皆さんが培ってきた学問が社会に果たすべき一つの側面でもあり、使命でもあります。

最後に、北海道大学医学院は常に、皆さんと共にあります。大学院修了は大学との別れではなく、新たな協働の始まりです。どうか、皆さんには、これからも、歴史と伝統のある本学の成長・発展に積極的に関わって下さるよう、心からお願い申し上げます。皆さんがそれぞれの分野で元気に活躍されることを祈念して、私の告辞とします。

令和7年3月25日

北海道大学大学院医学院長 畠山鎮次